

1. 概要

令和元年8月豪雨での新たな課題に対処するため設立された「令和元年8月六角川水系の水害を踏まえた防災・減災対策協議会」の流域自治体の首長をはじめ全12機関全てが参加のもと、六角川水系緊急治水対策プロジェクトで進めてきた取組のなかから代表的な取組の実施状況について報告がされ、質疑では活発な意見交換が行われました。

なお、本会議は新型コロナウイルス拡散防止のため、WEB会議形式での開催としました。

2. 実施状況

○日時 : 令和3年7月2日(金)

○会議方法 : WEB会議

○出席者 : 【WEB参加】 多久市、武雄市、小城市、大町町、江北町、白石町、九州農政局、九州森林管理局、森林整備センター、佐賀地方気象台、佐賀県

【本会場】 佐賀県(県土整備部)、武雄河川事務所



↑ 本会場 (武雄河川事務所)

← WEB会議開催状況

4. 令和2年度までに進捗した取り組みのうち、代表的な取り組み

- 河川における対策：直轄区間においては、河道掘削を重点的に行うことで、河川水位の低減に取り組んだ。
- 流域における対策：ため池の有効活用やクレーク等の事前排水の取り組みの推進が図られた。
- まちづくり・ソフト対策：各自治体で防災情報のプッシュ型配信や防災システムを構築し、防災情報の強化や充実が図られた。

5. 具体的な取組内容

具体的な取り組みについては、各首長及び機関の代表者から以下の内容について報告が行われました。

【武雄河川事務所】

- 六角川、牛津川で実施した河道掘削は計画量約37万m³のうち78%にあたる約29万m³が完了。これによる水位低下量と掘削した土砂の有効活用について説明。また、牛津川遊水池及び高橋排水機場の増強について現在の状況を報告。

- ##### 【佐賀県】
- 武雄川、山犬原川の河道整備の設計が完了。令和3年度から工事着手。広田川の排水機場の基本設計が完了。詳細設計を行いつつ必要な用地を買収し、工事を進めたい。

- ##### 【多久市】
- 防災情報無線を用いた自動配信サービスを開始し、防災情報伝達の機能強化を図った。

- ##### 【武雄市】
- 防災情報発信システム及び防災アプリなど、防災システムの構築と普及に取り組んだ。また、ハザードマップの更新と公開を行った。

- 啓発活動として過去の浸水位置表示板の設置や出前講座に取り組んだ。

- 避難所の環境改善のため、段ボールベット等の改良を行った。

- ##### 【小城市】
- 職員向けの防災情報の共有と一元管理を行うため、防災情報システムGISを構築した。

- 啓発活動として出前講座や自主防災訓練に取り組んだ。

- ##### 【大町町】
- ポンプ場の耐水化のため防水壁を設置した。

- 防災ラジオの各戸配布を行った。また救命ボートを確保した。

- ##### 【江北町】
- 情報発信アプリを導入し、プッシュ型で情報発信に取り組んだ。

- ため池や水路の事前落水の仕組み作りを行った。今後は県の支援を受け、更に検討を進める。

- ##### 【白石町】
- クレーク等の早期排水に取り組んだ。今後は県の支援を受け、流域治水推進の取り組みを進める。

【森林整備センター】

- 森林の計画的な整備と保全により、流域治水に取り組む。

5. 主な意見・コメント等

- ため池の事前排水は、事前排水の空振りによる水不足への対応が、流域治水を進めるうえで課題。

- 河川の上流整備を進めると下流の負担が増えるため、上下流バランスを考慮した河道整備が重要。

- 防災アプリは、平時から利用してもらうために、くらしの情報も提供するなどの工夫が必要。

- 災害時の情報は、防災、建設、農林と多岐にわたるため、窓口の一本化や整理・集約が必要。

■その他

- 防災・減災対策の推進を図るため、今後も情報の共有や協力・支援を行い、関係機関が連携していくことを確認した。